

小宮英夫の美学

小宮英夫の絵画作品の多くは、彼の持つ多彩な分野（文学・哲学・短歌・能など）の学識をもとに思考、創作表意されていることに気付かされる。「私は美のために絵を描くのではない」と語り、人の存在や精神面に深く起因する事象をテーマに描いた。卓越した描写力と詩的世界は、ある時には郷愁（ノスタルジー）を放し飼いにし、またある時は苦痛に満ちた姿を表し、観る者の心を異空間へと引き込んでいく。25歳から15年間を過ごした広島では美術以外の芸術にも深く傾倒し、そこでつちかわれたものは自身の世界観をよりいっそう深くしていった。68歳で他界した画家小宮英夫。このたび50年に渡る絵画作品（油彩の大作を中心に、中・小品と水彩・素描など100数点）を展覧いたします。芸術に魅了され、自身の眼差しを通して内なる世界を表現し続けたその軌跡をご覧ください。

私の絵画世界を見ていただきたい。



「シリア紀」515x365mm 顔彩 和紙 2000年



「異貌の塔」P100 2011年



「夕暮れの諧調」P15 2016年



「花卓の午後」M12 1992年



「採集・蝶」SM 1997年



「機影」F120 2017年 遺作

小宮英夫

- 1950 埼玉県浦和市（現さいたま市）に生まれる
- 1975 東京藝術大学美術学部油画科 卒業
広島市へ転居
ひろしま美術研究所、修道中・高等学校ほか美術科講師を務める
- 1978 第55回春陽展「ファウスト鳥」初入選
- 1981 初個展『感情装飾』油彩画・素描 広島市
- 1990 東京都へ転居
トキワ松学園中・高等学校（目黒区）の美術科教員となる
- 1992 第69回春陽展「月蝕II」奨励賞
中川一政賞、読売新聞社賞、大阪市長賞、
現代日本美術選抜展、第25回スペイン美術賞展で銀賞
- 2006 『小宮英夫展』仙台、盛岡、大阪、福岡にて2009年まで続ける
- 2013 病気の発覚 この年より闘病生活が始まる
- 2016 『小宮英夫展油彩画・素描』ギャラリー惣 東京・銀座
- 2017 第94回春陽展「機影」遺作となる
- 2018 2月 永眠 享年68歳
- 2019 広島へ転居
- 2020 第96回春陽展追悼展に「森へ」「夕暮れの諧調」を出品
- 2024 4月 『小宮英夫回顧展 - 此岸への眼差し -』広島県立美術館県民ギャラリー
『小宮英夫回顧集 - 視差 -』刊行

■ 春陽会会員 個展12回 グループ展多数

■ 作品収蔵：ひろしま美術研究所 上野学園ホール（広島県立文化芸術ホール）
修道中学校・高等学校 トキワ松学園 もみじ銀行本店

広島県立美術館

〒730-0014
広島県広島市中区上幟町2-22
TEL 082-221-6246
開館時間 9:00 ~ 17:00

● 路面電車でお越しの場合

JR 広島駅南口 A ホーム 1・2・6 番乗車→「八丁堀」乗り換え→白島線電車
「縮景園前」下車すぐ

● バスでお越しの場合

JR 広島駅新幹線口からひろしま観光ループバス「ひろしまめいぶる〜ぶ」
オレンジルート乗車→「県立美術館前（縮景園前）」下車

美術館内に生花の持込みはできません。
当館および近隣のコインパーキングは台数が限られておりますので、
なるべく公共交通機関でご来館いただきますようお願いいたします。